

第2回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議時・会議後の主な意見及び今後の対応

平成27年8月12日現在

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
1	人口分析について	つくば市の人口移動は特異であり、市内に3つの大学があるなどのアドバンテージがある。転入・転出が同じような動きを見せていることも興味深い。	1993年に研究機関が再編され47機関から46機関になり、1996年に46機関から45機関になった際に、転入・転出ともに大きな動きを見せていることから、ある程度の因果関係があるのではないかと捉えている。
2		転入・転出のピークとして1996年があるが、研究機関の再編以外にも原因がある気がするため、更なる分析が必要ではないか。	
3	各地区ごとのデータについて	つくば市は市域が広く、地区ごとに、転入、転出の流れ等が違うのではないかと。そうしたデータがあれば、地区ごとにどのような対策をしていくべきか、より深い議論ができるかと思う。	現時点で分析を行っている地区別の人口構成等のデータについて、可能な限りお示ししたい。
4	重点施策の設定について	行政が行う計画は、全方位的になる傾向がある。本会議として、これだけは外せないという施策に優先順位をつけ、まとめる方法については考えた方がいいのではないかと。	施策の重要度と満足度をもとに、今後特に力を入れる施策についてお示ししたい。
5		関連する個別計画はすでにやっているものも入っているのではと感じる。つくば市として何がやりたいかを出さないと国の方の意識としては各市町村同じものになってしまう。	
6		施策がやや総花的でまとまりづらいのではないかと。	
7		住みたくなるようなまちにするにはどの点を強化すればよいか、数値的なものがあるか。今住んでいる方が本当に住みやすいまちだと思っているとすればそれはどの点なのか、もっとここを強化すれば住みたくなるという所があれば強化していく点を明示する必要がある。	
8	重点施策の設定について(会議後意見)	部会では、全体会議でまとめやすいように、次回からは、何を最優先するか決めるべきである。全方位的に意見を集め、各意見を無視しないようにとりまとめると、結局、曖昧な計画が出来る。つくば市としては、他にない新たな制度、あらたなしくみをつくる方向を模索すべきである。	施策の重要度と満足度をもとに、今後特に力を入れる施策についてお示ししたい。
9		「市が何をやりたいのか」明確にすることが必要である。例えば、ワークライフバランスの重要性を言うよりも、そのために市が何ができるか、という方向でまとめるべきである。	
10	会議の進め方について(会議後意見)	全体会議においては、基本目標・基本施策・個別施策の構成等の骨格となる部分を議論し、部会において個別施策の詳細について議論すべきではないかと。	第3回では部会終了後に再度全体会議を行うため、部会での御議論の内容について取り上げさせていただきたい。

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
11		観光振興については、若手職員PTの提案はどれもたいへん面白いが、これらを一つにまとめるストーリーがほしい。「筑波山地域ジオパーク」構想と連携するなどのもその一つ。そのシンボルとして、「つくば道」の整備が必要。とくに「つくば道」の一部でも電線の地中化を進めるなどで本気度を示す必要がある。	ジオパーク構想については、広域連携の取っかかり・キーになるものだと考えているため、ストーリーを組み立てられるよう参考とさせていただきたい。
12	若手職員PTの提案について(会議御意見)	若手職員PTの提案には具体的で重要なものが数多くあると思うが、重複や類似もあるので、もう少し整理・統合して、骨太な構想にするよう検討してほしい。	
13		前回、若手職員プロジェクトチームの提案を十分に検討できなかったのは残念だった。市全体の動きを俯瞰できる職員から出された提案であり、これまでの会議で出された意見の多くを包含している。この提案を中心に議論を進め、それぞれの立場から出される意見をもとに、提案の取捨選択や内容の精選を図る方が効率的であるように思う。	庁内の新規・拡充事業等とも調整し、整理統合の上、実現できるよう進めたい。
14	基本施策の名称について	(2)エと(4)アが市民協働のまちづくりの推進とあるが、このタイトルは同じではなく、目的にあった内容に変えた方がよい。	
15	基本施策の名称について(会議後意見)	基本施策(2)ー(エ)と(4)ー(ア)が『共生のまちづくりを推進する』とあるが、同一の表題は違和感があるので、それぞれの課題を検証し、再考されたい。併せて、高齢者や障害者も暮らしやすい街作りというような視点も盛り込んでいただきたい。	御指摘を受け、目的にあった名称となるよう調整したい。
16	KPIの設定について	KPIも含めて他都市と比較してどれくらいの水準なのか。レベルが高いのか低いのか、目標とするためにも現状がどのレベルなのか分析できるとよい。	つくば市独自の指標が多く含まれているため、他都市と比較が難しいものが多いと考えている。
17	民間活力の活用について	行政主導というより民間を交えて民間に移行しながら協働事業していくことがよい。その方が皆さんの意識が高まり自分たちのまちのアピールを附加させていることにつながる。	民間活力の活用は重要なテーマであるため、今後の施策の立案の際に参考とさせていただきたい。
18		つくばに拠点を構えて30年になり、ここで出た意見・取り組み等について積極的に実践していきたいと思う。	民間の旗振り役として、是非とも先進的な取り組みへの参加をお願いしたい。
19	(1)しごとづくりベンチャー企業支援について	つくばは全国2位の創業数があるという点でも、ベンチャーが生まれている。今一番問題となっているのは、ある程度育った後のベンチャーのサポート体制が非常に不足していることである。うまくいったベンチャーがどんどんつくば市外に転出している。官民連携、間をつないでくれる人の存在が必要である。	第2発展期のベンチャー支援は、重要なテーマである。今後はつくば市産業振興センターの活用計画やつくばハイテクパーク構想の整備調査を行うとともに、引き続き、産業支援機関等が連携してコーディネーター等による支援を行っていききたい。
20	(1)しごとづくり商工業の振興について(会議後意見)	進出企業の代表例であるイーアスつくば(開店2008年)やイオンモールつくば(開店2013年)は、つくば市にとって、経済効果、雇用創出、人口動態(定住・交流人口)の点でどのような影響を与えたのか、与えなかったのか分析してほしい。	関係機関・民間団体等で調査を行っている可能性があるため、今後情報収集・分析を行いたい。

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
21		女性の力を活用していく必要があるが、女性たちの本音をとらえた施策を打ち出さない限り、なかなかうまくいかない。在宅ワークなどで子育てをしながら一日30分から1時間でも働ける仕組みづくりが注目されている。	市民アンケートにおいても、パートタイムで働きたいと思う方は多い。先進事例を参考に取り組んでいきたい。
22	(1)しごとづくり 子育て女性の活用について	つくば市は優秀な理系女性人材が眠っているということによく言われている。研究者同士の結婚が多く、研究所での研究支援員のような実験補助などスキルとか経験を活かした仕事がつくばにはたくさんあると思うが、マッチングする部分が上手くいっていない。女性研究者が立ち上げたベンチャー企業で女性研究員を育成し派遣をするなどの事例もあり、つくば市として支援できる体制があればいい。	つくば市研究支援センターでは、「つくば研究人材情報」として、つくばの公的研究機関・大学や企業の研究室で、研究や事務を手伝ってくれる人を求めている研究者(求人者)と、ここで働きたいと考えている求職者のマッチング情報をホームページで提供している。今後は、さらに多くの方に知っていただけるような体制を整えていきたい。
23	(1)しごとづくり 子育て女性の労働環境について	一昔前は育児休業を取る女性がなかなか少なかったが、ここ10年くらいほとんどの女性がとるようになった。しかし、職場復帰する人は半数程度で、社会復帰したい、また働きたいという女性もいるわけで、企業の受け入れ意識、パートタイムや在宅ワークなど、いろいろな形での職場復帰ができるような環境作りが必要。	庁内の新規・拡充事業等とも調整し、整理統合の上、実現できるよう進めたい。
24	(1)しごとづくり 農業の6次産業化について	農業の6次産業化については、日本の場合は素材が全部似ているため同じようなことになる。つくば市で農業6次化をやるのであれば、何か素材を加工して流通経路から販売から消費者まで全部一気通貫したものにしてそこまで持っていけないと日本中同じものが出てくることになる。	6次産業化の推進は、「つくば市農業基本計画」にも触れられており、総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
25	(1)しごとづくり 農業の振興について	農業の進行について、地産地消が久しく言われている。農業生産法人を設立し、生産能力を高める必要がある。余剰の土地があるなか、荒れ放題の土地は何とかし、貸して、作ってもらう必要がある。	地産地消の推進、意欲ある農業者の育成、農地の有効活用は「つくば市農業基本計画」にも触れられており、総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
26		環境の面からみて有機農業を中心に考える必要がある。東南アジア諸国では日本食が見直されていることを考えることが必要。	総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
27		若い世代がここに住んでここで就職したいと思う都市づくりのためのブランディングとして、科学技術の振興が入ってくるのだろうと思う。国の最高レベルの研究機関が大学、高校、中学、小学校等教育機関と連携して、子供のうちからつくばで最高レベルの研究に触れる機会を機会を増やすことが必要ではないか。	次世代を担う人材育成と科学の理解の醸成を図るために、つくばチャレンジ、科学オリンピック、イノベーションキャンパス、科学フェスティバル、つくばちびっ子博士などが行われており、今後も周知を図っていきたい。
28	(1)しごとづくり 科学技術の振興について	科学技術で新たな産業をつくることについては国としても大きな問題になっている。筑波研究学園都市には国の機関を含めて民間の研究所を含めるとかなりの数の研究所があるが、なかなか産業化に結びついていない。筑波研究学園都市にあるいろいろな研究機関にある技術・人材を産業界としてどう生かすか大きな注目点になっている。	つくばの技術・人材を産業界に生かすため、国内外との戦略的な広域ネットワークづくりやオープンイノベーションの推進なども重要な取組のひとつである。今後の科学技術の振興に際し、参考とさせていただきたい。
29		一番環境にいいのは電気自動車で、バッテリーの問題が画期的に進んでいく。つくばにはいろんな研究機関があるため、裾野が広がっていく。	総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
30	(1)しごとづくり ロボットの街つく ばの推進につい て	ロボットのまちつくばが標榜されている中、ロボットはつくばが比較的先進的な部分である。「ロボットに特化した地区」を作って情報発信をしていくことも考えられる。市役所の近くには比較的そういう企業もあるようなので、集約して産業化して、さらに医療や福祉にもつながる。	つくば国際戦略総合特区プロジェクトには、生活支援ロボットの実用化や革新的ロボットの医療機器・医療技術の実用化と世界的拠点形成があり、総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
31	(1)しごとづくり 企業誘致につい て	研究所の問題として敷地は広いが人が少ないため、研究所が増えても人は増えない。人を呼ぶには研究所ではない別のやり方を考える必要がある。	総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
32	(1)しごとづくり 国の機関等の誘 致について(会 議後意見)	つくばのネームバリューをいかし、国の機関を誘致してはどうか。ハローワークや労基等をつくばへ誘致できないか。	市(産業振興課)では、アクションを起こした実績があるが、難しい状況である。
33	(3)結婚・出産・子 育て 子育て男性の労 働環境について	少子化の原因の一つに、子育て世代の男性の労働時間が長いという考えがある。企業の中で長時間労働をしている男性を家庭に戻す施策をしていく。これは国だけではなく企業が率先してやっていく。ライフワークバランスの中で目標数値をきちんとだす。組織労働者の方はある程度守られているが、未組織労働者の方は経営者の意識も低いしなかなか難しい。	今後の就労などの施策立案の際に参考とさせていただきたい。
34		ワークライフバランスを全体を通して打ち出していく必要がある。女性が働きやすい職場づくりも大事だが、男性が家に帰りやすい環境づくりも必要である。つくばにあればいい仕事・いい生活ができることをPRし、実現していく施策を作っていくと出生率の向上にしても社会増についてもかなわない。	
35	(3)結婚・出産・子 育て 労働に関する制 度について	ドイツでは、休暇は労働者の権利ではなく、会社が休暇を取らせないといけなくなっている。日本的なパートとフルタイムなど、日本は構造的に変わらないのでぜひこれから変えるのも必要と考えており、つくば市で何か新しいやり方を示して欲しい。	総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
36	(3)結婚・出産・子 育て 結婚について	家族になるという以前の問題。昔は、見合いのやり手があったが今は少ない。つくばでのお見合い、合コンなどがあればいいのでは。	総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
37	(3)結婚・出産・子 育て 不妊治療につい て	不妊治療について一人目はすぐできたのに二人目はなかなかできないという人が多い。	つくば市において、年齢・補助回収等の制限はあるが、不妊治療について助成を実施しているため、制度の活用を図りたい。
38	(3)結婚・出産・子 育て 障害者の地域生 活支援について	発達支援者を増やしサービス利用を増やすとあるが、今は一杯で入れない。重度心身不自由児で医療ケアが必要なお子さんの一時預かりサービスが市内にないと聞いているので、どうしても預けなければならないというときは市外まで行っている現状がある。	このような施設は、医療型の施設であり、県北・県西に5カ所設置されています。つくば市では、平成23年度に市内の介護老人保健施設に短期入所の提供を依頼しましたが、すべての施設において、障害者等への対応は難しいとの回答を受けました。また、平成25年度茨城県に対し、県南地区に重症心身障害者(児)の施設設置要望書を提出しましたが、施設運営の事業所や他市町村からの要望がないことから、設置に対する動きが現在見られない状況です。

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
39	(3)結婚・出産・子育て 障害者の地域生活支援について	障害者と言ってもだれがいつ障害者になるかわからない。いつ障害者になっても安心して住めるようにする。つくば市は福祉の市というのを何年も前からうたっているの でその名に恥じないような福祉の市のあり方をしていた きたい。	今後の福祉等の施策立案の際に参考と させていただきたい。
40	(3)結婚・出産・子育て 教育現場における支援体制の整備について	小学校で全教室副担任制というのが福井県などであり、 子供を安心して学校に預けられる環境を整えるのも大 事。子供の心のケアや学校に行きたくならないような環 境にしないことが親として一番だと思っている。	福井県は小学校で全教室副担任制を 置いているのではなく、非常勤講師を TTとして置いており、つくば市でも行っ ています。
41	(3)結婚・出産・子育て 小中一貫教育の充実について	小中一貫教育の充実など非常に良いことだが、中央部 は子供の数も多いし、学校の生徒数も多いので先生の フォローも行き届いているイメージがある一方で周辺部 は副担任の人数が足りないなどのイメージがある。また、 小学校は公立に通ったが、中学校は私立へ進学すると いった場合は、教育の学習環境のギャップなどいろん な弊害が生じていないか。広い意味での教育レベルの向 上を期待したい。	副担任の数など教職員の定数は県で 決まっており、中心部と周辺部での差は ありません。また、また、つくば市は、文 部科学省の示した学習指導要領に基 づき学習を行っているため、学習内容 について差が生じることはありません。
42	(3)結婚・出産・子育て 小中一貫教育の充実について	小学校から中学校へ上がる際に30～50人一つの中学校 で流出する。そうして流れていったお子さんたちが将来 どの程度つくばに戻ってくるかといふとかなり少ないの ではないかと思う。	こどものうちからつくばの良さを実感して もらえるような施策に力を入れていく必 要があると考えている。
43	(3)結婚・出産・子育て 科学教育の推進	高校生が小学校・中学校に対して、つくばスタイル科な どの授業で支援できる部分などがあるのでは。教育委員 会などで全体をコーディネートしてくれる場があればやり やすい。一方で高校で科学教育を推進するという話があ るが、これだけ研究所がたくさんあって、そういうところの 方々に高校生がわかりやすくそして新たな発見ができる ような刺激を与えてくれる機会がほしいと思っている。し かし、これについても個別に折衝するしかなくてなかなか 実現が難しいため、何らかの形でコーディネートしてくれ る場があったらいい刺激を与えられる。	今後の教育等の施策立案の際に参考と させていただきたい。
44	(3)結婚・出産・子育て 子育て環境の整備	若い人たちが出産して、子供が病気になるときに休みを 取って仕事を中断しないといけないのが大変。病気の子 どもを預かってもらえる施設があるとすごく働きやすい。	今後の育児等の施策立案の際に参考と させていただきたい。
45		育児子育ての世代への支援が必要ではないのかと思 う。女性が子育てしながら働き続けるのは難しい。休日保 育など今働いている人たちの実態に即した対応をとって いただければ非常に住みやすいつくば市になる。子供 を預けられるかどうかという不安があると、出産をためら う大きな要因になる。	
46	(2)定住促進・交 流 基本目標につい て	「東京圏から人を呼ぶとともに、茨城県南の人口流出の ダムとなる」に違和感を感じる。コンクリートで造ったダム で強制的に出ていかせないというイメージをうける。若者 が出ていくということについては、知見を広める意味でも 悪いことではないし、最終的に戻ってきて、つくばで暮ら したいと思えるようになって戻ってくる、そういう魅力を作 るべきでは。	基本目標について、「茨城県南の人口 流出のダムとなる」を「若い世代のUター ンを促進する」と変更したい。
47	(2)定住促進・交 流 基本目標につい て(会議後意見)	『(2)東京圏から人を呼ぶこととともに、茨城県南の人口 流出のダムとなる』とあるが、他の委員から意見もあつた が、つくば市に就学・転勤等で居住した経験のある人との 関係について(交流人口等)着目した目標設定や施策 を検討されたい。	

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
48		人口の定住, 増加を考えると, 小さいときからつくばに来てもらい, つくばを好きになる, 興味を持ってもらうことが大事である。小学校に校外学習という日があり, このコースにつくばを入れてもらう, そういう戦略を考えるべきと思う。	総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
49	(2)定住促進・交流 小学生の校外学習について	校外学習は観光という括りにはせず, 戦略的にこどもの親にアピールできるよう, つくばの魅力をまずこども達から伝えていくことが重要。	
50		市外から小中高校生を呼び込むのは非常にいい案だが, 大々的にやっていくとなると人的な負担がかなり出てくる。一般公開施設があるところはそれで対応できるが, そうでないところは支援がないと飛躍的に拡大するとなると対応できない。今回の仕組みの中で協力することができるといい。	
51	(2)定住促進・交流 サイエンスツアーについて	EXPOセンターでもサイエンスツアーなどイベントをやっている。市外の方たちの所へ行ってこちらにも呼ぼうという話も出ている。それぞれが皆やっているのだから, 全体でまとめてやるのが大事。	今後の交流等の施策立案の際の参考とさせていただきたい。
52	(2)定住促進・交流 科学のまちつくばのプロモーションについて(会議後意見)	「科学の街つくば」をプロモーションするためには, つくばに立地する研究機関の研究成果を広報するのではなく(それが必要だが本来は研究機関自身がやること), 科学技術が市民生活や市の行政にどのように活用・反映されているか, つまり「科学的なつくば市民生活」をデモンストレーションすることが必要。初・中等教育での活動(つくばスタイル科, 科学フェスティバルなど)を全国的なイベントとして紹介することや, 市が中心になってやっている実験事業を広報・強化する必要があるのではないかな。若手職員PTの③, ④などは面白い。	「科学技術の振興」や「科学教育の推進」等の施策と連携し, より効果的なプロモーションが行えるよう, 参考とさせていただきたい。
53	(2)定住促進・交流 シティ・プロモーションの推進について	いかに「いい噂」を流すかが重要。元になるのはつくばの皆さんの郷土愛。いくら東京に向けて番組を紹介してもつくばに暮らしている方が本当に愛を持っていないと。うまくこの会で整理してまとめていきたい。「テレビ雑誌マスコミなどに対し積極的に情報提供し接触を図る」とあるが, 発信する側も愛着をもって発信してほしい。	今後のシティ・プロモーション施策の立案の際に参考とさせていただきたい。
54	(2)定住促進・交流 道の駅の整備について	つくば市には高速道路が十文字に走っており, インターチェンジだけでも5箇所あるため, 道の駅を整備する必要がある。道の駅には, 免税店の設置も視野に入れて, 農産物が豊富な地の利を生かして人を呼び込みたい。小さい商業者を救っていく意味でも是非とも必要な施設である。	総合戦略の新規事業策定の際の参考とさせていただきたい。
55	(2)定住促進・交流 魅力ある居住環境について	地域としては, 住みやすいまちであることが重要。こんな広い町でありながら, 駐車場が不足している。外部から来た人間にとって住みやすいまちとして, 車社会に適した, 滞在しやすい, 活動のしやすいまちを目指す必要がある。	誘導・案内等についてはかねてからの課題であり, 今後の施策立案の参考とさせていただきたい。
56		東京からくると, まちの中心部以外は案内が少ない。車が大変というのは感じる。町が暗いイメージもある。	

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
57	(2)定住促進・交流	国際化という観点が必要であり、人口、教育、定住の意味でも国際化という視点をもう少し入れた方がいいのではないかな。	今後の国際化施策の立案の際に参考とさせていただきます。
58	国際化の推進について	現在は、海外の人に対するプロモーションはほとんどしていない。海外の高校生に向けたプロモーションも必要で、教育環境がよい、仕事の間もあると感じてもらふことや、つくばスタイルの授業風景をみてもらってもよい。	
59	(2)定住促進・交流 国際課の推進について(会議後意見)	人口の割に在留外国人が多いにもかかわらず、これまで日常的に外国人市民同士が交流できる機会が少ない実態がある。外国人市民や交流団体が容易に集まれる「つくば国際市民広場」(仮称)のような常設コーナーを設置してはどうか。ここに国際姉妹都市(友好都市)の紹介も併設・拡充し、気楽なカフェ形式でさまざまな国の文化紹介や交流イベントもできれば、国際都市つくばのシンボルとなる。	
60	(2)定住促進・交流	ベッドタウンとしてのつくばを大々的に売り出すことで、社会増、自然増、両方のことが期待できる。近隣の埼玉にしても千葉にしてもベッドタウンとして発展した街で、つくばでもやるべきではないかと思う。	通勤・通学者の視点に立って考え、東京圏へのアクセスの向上やTX沿線開発等の今後の動向において、総合戦略の参考とさせていただきます。
61	つくばのベッドタウン化について	TX等が整備されたお陰で、充分東京都市圏に勤務することは可能になっているにも関わらず、なぜつくばから転出する人が多いのかという議論をしないと転出者というのは減らないと思う。それも一貫してベッドタウンとしてつくばを売り出すという方向もあった方がいいと思う。	
62	(2)定住促進・交流 研究者の定住について(会議後意見)	研究者は移動が少ないため、市内に家を購入する人が多く、マイホームを選ぶ際は駅近(徒歩圏)を求める人が多い。	
63	(2)定住促進・交流 転入・転出の傾向について	転入者がつくば市だけで1万4人。茨城県が4万人の転入で、全県の転入者のうち3分の1はつくばに来ている。これは他の市にはない特徴で、ある意味で必要に迫られて入ってくる人が多いと思う。つくばが大好きだといって入ってきた人じゃなかったとしても、つくばのよさに目覚めて、住み続けている方を増やす方がよい。本当につくばがいいと思えば年間1万数千人いる転出者の何%かは残ってもらえることを考えれば、社会増減は、転入を増やすより転出を減らすことが重要と思う。	御指摘のとおり、外にいる方に転入を働きかけることも重要であるが、今いる方の転出を抑える方が実効性が高いため、施策立案の際の参考とさせていただきます。
64		子どものころから故郷への思いを醸成できる教育や雰囲気醸し出せるものがあるといい。他地域に出て行ってもやっぱり故郷が一番だと思えるものを作る。筑波大学生が来て、4年間過ごして、ここに住みたいと思わせるような仕掛けが必要。	
65	(2)定住促進・交流 転入・転出の傾向について(会議後意見)	転出予備軍である大学・大学院の最終年度の学生や、定期的な転勤のある研究機関の勤務者などを対象に、仮に勤務地が市外になったとしてもここに住み続けてもらうための施策を考えてはどうか。例えば、一定のつくば市居住経験を条件として、市外へ就職や転勤した場合に住居費や交通費の一部を補助するなど。地方の町村では、住みはじめてもらうためにあの手この手の補助を出している例も良く見られるが、つくば市はそれをしなくても転入者が毎年たくさん来てくれるわけで、転入促進より転出防止のほうが、よほど費用対効果は高いはず。	

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
66	(2)定住促進・交流 観光の振興について	イベントなどは色々なことを一度にやりすぎと感じている。例えばつくば市で主催でやっているイベントも、10月のころにはイベント過多になり全部分散してしまう。効果・盛り上がり分散してしまうため、セパレーションするべき。観光は観光で、学術的な物は学術的なもので、見せ方で全てが決まるのではないかな。	今後の観光施策の立案の際に参考とさせていただきます。
67	(2)定住促進・交流 文化・芸術の振興について	歴史、文化、自然を紹介する「つくば中央博物館」を設ければ観光としても目玉になるし市民の誇りにもなる。ただし、箱モノではなく、既存の施設を改修してでも、中身を蓄積していくことこそ必要。科学技術についてはエキスポセンターやサイエンスツアーがあるので重複を避け連携すればよい。	今後の公共施設の再編等にあわせ、今後の再編計画の参考とさせていただきます。
68	(2)定住促進・交流 スポーツの振興について	運動公園は、ホームグラウンドになるものと呼び込まないとだめでは。県としては鹿島アントラーズを作ったが、つくばも場所を作るだけではなく、併せて様々なものを誘致することが重要。	今後のスポーツ推進施策の立案の際に参考とさせていただきます。
69	(4)地域拠点整備 交通移動体系の整備	低炭素交通手段LRT等ということまでできている。特に地域の拠点を強化して地域のコミュニティづくりを推進するというので、LRTに限らないがいわゆる公共交通機関の整備を一つ重点項目として検討いただくのがいいのではないかな。	LRTに特化しているわけではないが、基本目標4において、「交通移動体系の整備」の個別施策を設けているので、更に検討を深めたい。
70		例えばつくばリンというのがあってもいい。武蔵野市では緑色の自転車が走っている。これは市の自転車だとわかりやすい。低炭素・環境に貢献していると。つくばの住みやすいまちづくりをしていることをもっと見せる必要がある。富山市は富山市環境自転車という同じ色の同じスタイルの自転車がバス停に置いてある。	基本目標4において、「交通移動体系の整備」の個別施策を設けており、自転車のまちづくりについても言及しているので、更に検討を深めたい。
71		最近研究学園駅はP&R駐車場がなくなったため、あのあたりの駐車場が一杯になってしまったという話。バスに乗ろうとしたら、バスの停留所がものすごく間隔が離れていて乗れない。自転車で行っても大変遠いので危ないという話が良く出ている。もっとつくバスを便利に運行する必要がある。	基本目標4において、「交通移動体系の整備」の個別施策を設けており、つくバスの利便性の向上についても言及しているので、更に検討を深めたい。
72		つくバスをもう少し魅力的にした方がいい。つくば市内でつくば市内のどこの地区でも気軽に行けるような仕組みをつくバスでつくるのがいい。例えば、北九州市内では1ヵ月1,000円で乗り放題という制度がある。	基本目標4において、「交通移動体系の整備」の個別施策を設けており、つくバスのサービスの充実についても言及しているので、更に検討を深めたい。
73		TXは高いので料金を下げるべき。黒字になっているので下げさせた方がいい。	TXの運賃については、市民からも要望が出ており、首都圏新都市鉄道(株)に対し、要望内容を取り次いでいるので、今後の施策立案の参考とさせていただきます。

No	項目	意見概要・ポイント	対応方針(事務局の考え)
74	(4)地域拠点整備 交通移動体系の 整備(会議後意見)	つくば市庁舎や消防本部等, つくば市の中心となりつつある研究学園駅にTXの快速が停車するようになると良いのではないかと。	研究学園駅への快速列車の停車については, TX沿線市とともに要望活動を続けているので, 今後の施策立案の参考とさせていただきたい。
75		駅からの交通手段がなく, 新規従業員は自動車がなく, 休日は都心に出てしまう。 公共交通(つくバス・つくタク)の更なる充実に期待したい。つくばは車社会のため, バスが利用されないで減便となり悪循環を生む。15分間隔で電車・バスに乗れるような環境にすると利用者が増えるのではないかと。	基本目標4において, 「交通移動体系の整備」の個別施策を設けており, つくバスの利便性の向上についても言及しているので, 更に検討を深めたい。
76		中期的な施策としては, 市内の移動だけではなく, 東京圏への通勤通学者を念頭に置いたLRTなどの地域交通システムの整備が重要と考える。通勤通学者が住居を探す際に, ドアtoドアの所要時間は重要な要素。せっかくTXで1時間足らずで駅まで着いても, 車でなければ駅から数十分もかけて帰宅しなければならないのでは, 居住地の候補にはなりにくいと思う。	LRTに特化しているわけではないが, 基本目標4において, 「交通移動体系の整備」の個別施策を設けているので, 更に検討を深めたい。
77	(4)地域拠点整備 シニア世代の活用について	老人力の活性化について, 実際人口では老人が増えるという統計が出ているので, そういう切り口が足りていないのかと思う。	御意見を踏まえ, 基本目標4において, 「シニア世代の人材活用」の個別施策を設けたので, 更に検討を深めたい。
78	(4)地域拠点整備 災害に強いまちづくりの推進	災害に強いまちづくりになるために, 様々な取り組みが行われているが, インフラ面整備を含めたソフト面の拡充も含めて行うことでコミュニティの推進も図れるのではないかと。	基本目標4において, 「災害に強いまちづくりの推進」の個別施策を設けており, ソフト面の施策についても言及しているので, 更に検討を深めたい。
79	(4)地域拠点整備 文化施設等の活用について	つくばには運動公園をつくるという話があるなか, 作らなくてもいいものもある。例えばノバホールは, NHKの技術で作ったサントリーホールと引けを取らないホールであり, こうしたものをもっとアピールする必要がある。	基本目標2において, 「スポーツと文化・芸術を振興する」の基本施策を設けているので, 更に検討を深めたい。
80	(4)地域拠点整備 他都市との連携について	秩父市が豊島区と, 「秩父に住んで豊島で仕事をしてもらおう, 連携して住みやすい町に」という協定を結んだことが新聞に出ていた。西武鉄道とかやっているのかと思うが, TXでもできるのではないかと。	首都圏新都市鉄道(株)は, 沿線自治体が出資する第3セクターであることから, 自治体間連携の可能性も考えられる。今後の施策立案の参考とさせていただきたい。
81	(4)地域拠点整備 空き家の活用について	筑波山麓は空き家が目立っている。空き家バンクについて, 2地域居住を推進していくことが重要。特に空き地・余剰地等の活用として, 地元の産業と結びつけたPRをしていけるといい。	基本目標2において, 「快適な生活環境の推進」の個別施策を設けており, 空き家の有効活用についても言及しているので, 更に検討を深めたい。